

余白の人生パソコン一途



御田町 武居 ヒロ

昭和十八年から十九年、私は名古屋にある享栄商業女子タイピスト学校に居た。その学校の別室に、戦時中のことゆえ、覆いをかけた英文タイプライターが何台もあった。先生の目を盗んで、キーボードにそっと触れた記憶が指先に残っていた。

七十一歳の五月、私の意志に関わりなく、デスクトップ型の大きなパソコンが我が家に据え付けられた。主人の贈り物である。キーボードに触れた指は、少女時代の英文タイプの記憶を

よみがえらせた。ワード・エクセルの初級・中級・上級と厚い本・薄い本が本棚にギッシリと並んだ。ワードは二年半、夢中で勉強した。

丁度その頃、今籍を置いている高齢者のパソコン講習会が新聞で会員募集をしていた。入会してみると、当時の講師は「太郎」というソフトで教えていたが、ワードはこれから勉強しながら教えるとのことであった。ここで思いがけず、独学ながらワードの勉強が役立つことになり、私がワードを教えることになった。高齢者のパソコン教室ということ、興味のある方た

ちが集まり、十人単位一教場で、あつという間に三教場になるほど会員さんが集まった。資料は、ファイルの表紙を作るところから出来るまでの手順を、全て自分で手作りのテキストを作った。「本では難しい。このテキストであれば、出来るまでの順序が一貫しているから作りやすい」と好評である。イラストの勉強も取り入れた。これが思わぬ効果があった。思いもよらぬ才能のある方の発見があり、またそこから私自身も新しい勉強をした。

こんな勉強方法で十年以上がアツという間に過ぎてしまった。私も八十四歳の会員最高年齢にもなつてしまった。振り返ってみると、パソコンというものは、高齢者にとっては格好のおもちやである。指を使い、頭を使つて、ボケることを少しでも向こ



いきいきプラザで IT教室を

うに追いやることで、家族や周りの方に迷惑をかけないことに少しは役立っているのかなと思うこのごろである。
現在は、入会者各人の「今どうしてもこういう書類を作りたい」「表を作りたい」などの要望に沿ったテキスト化に取り組んでいる。

夫婦で登る百名山



大門 中村 美枝子

山の畑での野菜作りと登山が今の楽しみです。

十年ほど前から、NHKの「野のつるを編む」というカルチャーに通っています。材料の蔓取りに仲間と出かけます。仲間の中に、山が好きで奈良から転居してきた友人がいて、山に連れて行っていただいで、野山の花を教えていただいたりしているうちに、山に、高山植物に魅せられてきました。

主人の定年を機に、道の駅・サービスエリアを利用して、マイカーで車中泊する旅を始めました。五年前、主人が「登山しよう」と言い出し、登るなら百名山に挑戦しよう」と計画を立て、旅行と同様な方法で、若い内に遠方からと始めました。

最初の登山は、大好きな高山植物が咲き誇る「月山」でした。岩木山・岩手山・鳥海山・阿蘇山・石鎚山等、三十二の百名山を達成。



定年を機に、夫婦2人で

去年十月五、六日には常念岳に登山しました。早朝、家を出発。一の沢登山口で登山届を提出し、花、木々などを各自カメラにおさめながら登る。

中ほどから紅葉が始まり、坂道を息を切らして登った途端、目の前に壮大な槍ヶ岳が見えた。大きい。嬉しかった。「もう一山越せば登れそう」と思った。ここが常念乗越、その後常念山荘で昼食をとり、登頂に出発。岩場の山道が続く。北アルプスの山々は、次々と雲に隠れて行く。「雷鳥に会えるかも」と、ハイ松の下を覗きながら頂上へ。「バンザイ！一山達成」。下山し、山荘で遠方から来た人たちと山の話をしながら、夕食をいただいで床についた。

翌朝、外に出て見上げると、星が輝き、周りの山が真っ黒くはつきりと見えた。天気だ。前方に雲海、その向こうにひと筋の輝きが見え、太陽が登り光り輝く。歓声が！後ろを振り返ると、赤い槍ヶ岳がくつきりと目に入る。御来光と赤い槍ヶ岳、常念岳の朝の素晴らしい光景を十分に味わいました。

山荘から横通岳に、紅葉の山道を登山。前方の紅葉の山の奥に立つ、北アルプスのパノラマを堪能し、下山した。
これからも、一番登りたい槍ヶ岳と百名山登山達成を目指し、元気で山に登り続けていきたいと思えます。山には、その山、その山の花の美しさ、楽しみがあります。次はどこへ？



次に目指したい槍ヶ岳